

小袖貝

妻の手を確しかと握にぎって宮参り健康祈願の柏手をうつ

道倉嘉寿吉

「おばあさんに教わった三つ星見えています」叔父の戦場便りにありき

藤近 容子

朝露あさで飛べないカメムシ地に落とし踏み殺しおりわれは山姥やまば

大西久羅子

風鈴の音なだめつつひと夏の思い出いっしょに小箱に収む

中村 隆美

また一人同級生がみまかりぬ無理はすまいと辣蕪を植う

三保木正子

マネキンの着けいるブラウスはわが好み今日も横目に見て通り過ぐ

谷脇 巴

四人よつたりの子に含ませふふし乳房ちちぞガンなどあるなと再検診受く

秋沢香代子

メジカの子は新子ともローソクとも呼ばれサシミにされていま食卓に

大西 禎子

里の庭に鳴く法師蝉夕暮れて姉の電話の向かうに聞こゆ

曾根 澄子

物置の隅に置かれし糸車ぐるぐる廻して姑しのびおり

文野 寿代

写真提供：砂浜美術館

編集後記

「暑の寒も彼岸まで」夏の暑さも秋分ころには和らぎ、凌しのぎやすくなるという昔からの言い伝えだが、今年ほど、この言葉が当てはまらない年も珍しい。

全国的に最高気温や熱帯夜の記録更新などで野菜、果実など農産物にも大きな影響が出ている。

自然環境の変化がもたらす異常気象の警鐘であっても、朝晩が涼しくなれば遠く過ぎ去ったことのように忘れてしまう。

自然の豊かさを謳うたう黒潮町ならではの環境施策がほしいと思う今夏だった。

議会広報常任委員会

委員長 西村 将伸
副委員長 山下伊都子
委員 坂本 あや
下村 勝幸
宮地 葉子